

Vol.5

がやチル

ちょっと面白いコミュニティスペースでの毎日



私はこれまで、ITの仕事続ける一方で、女性の起業や再出発を支える活動に関わってきました。「やってみたい。でも、自分にできるだろうか」そんな不安を抱えている人が、それでも少しでも勇気を出して一步を踏み出せる場所をつくりたい。そんな思いから生まれたのが、ガヤチルです。そして今、もう一つ大切にしたいと思っているのが、若者たちが孤立せずになれる地域をつくることです。

私はバブル崩壊直後に大学生となり、「就職氷河期」と呼ばれる時代を過ごしました。就職では私自身も相当苦勞しましたし、同じ世代の人たちが、仕事や生活の不安定さを抱えながら、「自分で何とかするしかない」と多くのものを抱え込んできた姿も見てきました。

だから、今の若者たちが感じている生きづらさについても、ある程度わかっているつもりでした。若者の孤立や自殺が増えていることも、支援制度があっても、本当に苦しい人には届かないことがあることも知っていました。けれど、ここ数年、私より若い身近な人たちが、それぞれ異なる事情を抱えながら、自ら命を絶つという出来事に接しました。

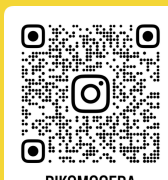
そのとき、「知っていること」と「わかっていること」は、まったく違うのだと思い知らされました。もっと話を聞くことはできなかったのだろうか。もっと前に、誰かとつながることはできなかったのだろうか。そんな答えの出ない問いは、今も心の中に残っています。そして考えるようになりました。必要なのは、「困っている人をどう支援するか」ということだけではないのではないか、と。

本当に苦しくなってから「助けて」と声を上げることは、簡単ではありません。人とのつながりが少しずつ細くなり、「これくらい自分で何とかしなければ」と抱え込むうちに、気づけば誰にも話せなくなっていることもあります。だからこそ、孤立した人を探して支えるだけではなく、そもそも孤立しにくい地域をつくるのが大切なのではないのでしょうか。困ったときに初めて誰かと出会うのではなく、何も起きていないときから緩やかにつながっている。そんな関係を地域の中に増やしていきたいと思っています。

今の子どもや若者たちに、少なくなっているものの一つが、「家族でも先生でもない大人」と自然に出会う機会ではないかと思います。

昔の地域社会がすべて良かったとは思いません。それでも、近所の人や商店の人、友達の親など、家庭と学校の外にも「自分の顔を知っている大人」がいる環境は、今より多くあったように思います。そうした大人は、人生について正しい答えを教えてくれる人でなくてもいいのです。顔を合わせれば挨拶をする。元気がなさそうなら少し気にかける。話したそうなら耳を傾け、話したくなさそうなら無理には聞かない。

オーナー吉田りこのSNSたち



今すぐ
チェック！

私は、地域の居場所で大切なのは、何かを評価することよりも先に、その人をそのまま受け止めることだと思っています。学校に行っているか、仕事をしているか、将来をきちんと考えているか。そうしたことを確かめてから「ここにいていい」とするのではなく、まず安心してそこにいられる。その安心があるからこそ、人は誰かと話したり、何かをやってみたりできるのではないのでしょうか。「若者支援」という言葉にも、少し難しさを感じます。もちろん、専門的な支援が必要なときには、行政や福祉、医療などにつながる事が大切です。ただ、地域の中でまで「支援する人」と「支援される人」を固定する必要はないのではないのでしょうか。ある日は、若者が大人に話を聞いてもらうかもしれません。でも別の日には、その若者が小さな子に勉強を教えているかもしれない。高齢者が若者に昔の地域の話伝えることもあれば、スマートフォンの使い方を教わることもあるのです。

人は、いつも強いわけではありません。でも、いつも弱いわけでもありません。誰かに助けてもらう自分も、誰かの役に立つ自分も、同じ自分です。そんな関係が世代を越えて行き交うことが、「地域共生」ということなのではないかと思います。

ガヤチルが目指しているのも、大きな施設や特別な支援拠点ではなく、「まちのお茶の間」のような場所です。特別な用事がなくても立ち寄れて、話したければ話して、一人でいたければ一人で過ごせる。でも、そこには誰かの気配があり、しばらく来なかった人が久しぶりに顔を見せれば、「元気だった？」と声がかかる。そんな何気ない関係の積み重ねが、人を地域につなぎとめてくれるのではないのでしょうか。

人は、自分を受け入れてもらうことで安心しますが、それと同じくらい、「自分にもできることがある」「自分がここにいることに意味がある」と感じることで、その場所とのつながりが深くなっていくと思います。だからガヤチルでは、若者を「お客様」にしたくないと思っています。何もしないで過ごす日があってもいい。でも、何かやってみたいと思ったときには、一緒に考え、一緒につくることができる。イベントを考えてもいいし、得意なことを誰かに教えてもいい。時には年上の人に助けてもらいながら、別の場面では自分が誰かを助ける側になる。そんなふうに、一人ひとりが無理のない形で地域に関わることができれば、「ここにいていい」という安心は、やがて「ここは自分もつくっている場所だ」という気持ちに変わっていくのだと思います。

ガヤチルは、若者のために何かを用意する場所ではなく、若者と一緒に育っていく場所でありたい。そしていつか、ここに来ていた若者が、今度は次の誰かに「ここにいていいよ」と言える人になってくれたなら。

そんな小さな循環が、この街の中に少しずつ広がっていくことを願っています。

クラウドファンディングに
ご協力お願いします



若者の命を救いたい

仕事があっても、
住む場所があっても
孤立する若者に
夜の居場所を。
その先も、歩いていける
ように。

目標金額 **50万円**

一般社団法人
ソブリン・
ムーブメント

越谷「ガヤチル」
複合施設プロジェクト

QRコード

応援。ご支援。シェア。よろしくお願いします！